



研究テーマ：健康な日本の地域社会のための地域レベルの社会的イノベーション

代表研究機関：大阪大学

主導研究者：榎藤恭之、安元佐織(大阪大学人間科学研究科)

助成金額：20,000米ドル

助成期間：2017年10月～2018年5月

● 背景

保健医療および社会ケアシステムの持続可能な財政の確保は、政策上の重要なゴールと見なされています。カナダや日本、ノルウェー、スウェーデン、スイスなど複数の高所得国では、施設での介護より、むしろ地域に留まり晩年を過ごすことが好まれる傾向があり、結果として地域社会に暮らす高齢者の数は増加しています。そのため、高齢者のニーズに対応するための、今までとは異なる調整や社会的ネットワークが必要とされています。

地域レベルの社会的イノベーション(CBSI)は、高齢者のニーズへの対応となり得るイノベーションの一つの形です。先行研究および専門家会議により、CBSIの基盤となる原則が、次のように定義されました。高齢者の能力を、自ら自身のため、社会的包摂のため、そしてウェルビーイングの維持のために強化することです。このプロジェクトでは、世界的に最も高齢化が進み、85歳以上の人口が増加している日本において、CBSIの背景を研究しました。

● 目標

日本におけるCBSI、その領域、どのようにして保健・社会的サービスと地域社会を結びつけるのか、それが与えるインパクトについて、より良い知見を得ることです。

● 手法

1. 兵庫県内の1都市、1農村と1漁村を含む、3地域での参与観察。
2. 地方自治体職員と地域社会のリーダーに対する10件の半構造的インタビューと、地域社会の構成員による3回のフォーカスグループ討論。
3. 分析はグラウンデッド・セオリー(Grounded Theory)を使用して実施。

● 得られた知見

1. 高齢者は均質ではありません。例えば、75歳未満と75歳以上のグループの間には、行動に明確な世代間差が認められます。
2. 身体運動に基づく活動は極めて重要ですが、そのような活動は、可動性に制限のある人々に対して、より適したものであるよう改善を要するでしょう。
3. 地域社会においては、高齢者には、より顕著な発言権が与えられています。政策立案者や公益事業は、高齢者のニーズや活動をより意識するようになってきました。
4. 高齢者の多くは女性であるものの、男性の高齢化も進んでおり、活動が男性のニーズにも応じて考慮される必要があるでしょう。
5. 持続可能性が課題として残されており、活動は非常に限られた優れたカリスマ的指導者に高く依存しています。

